

「潰瘍性大腸炎が1度の 相談会で改善したケース」

CHhom7期 東京本部ホメオパス

JPHMA認定ホメオパス No.1033

インナーチャイルドセラピスト認定 No.0309

和泉田 聡美

50代 女性 Bさん

【主訴】

軽度の潰瘍性大腸炎

2024.4.18 1回目相談会

数年前に潰瘍性大腸炎を発症。食後便に血が混じる。
腸に便が溜められず、便が腸内の臭いがする。

《病気発症の背景》

Bさんは、4人きょうだい。5歳年上の姉と仲が悪く、Bさんは白黒はっきりさせたい性格。

父親と喧嘩することもあり、母親が喧嘩の仲裁にはいったくらい激しいものだった。姉も父も自己中心的。

Bさんは初め、父親とのインナーチャイルドが病気の原因と考えていた。

《インナーチャイルドに気づく》

パートナーの方が新たに事業を始めたため、
忙しくてコミュニケーションがとれていなかった。
別れ話や喧嘩も多く、意見が合わないと無視されたりと
思いやりもなく、優しさもなかった。
転んだ時にも、「大丈夫？」などの優しい言葉もなかった。

母親にも

同じようにされていたような...

《過去を思い出す》

弱い自分だった子供の頃、寂しくて一人ぼっちだった。本当は母親に、「大丈夫？」など優しい言葉をかけてもらったり、優しくされたかったことを思い出す。

パートナーの方は、そこに気づかせるための存在。だから優しくなかった。実は、ありがたい存在だった。

Bさんのインナーチャイルドは母親の愛を求めていたことに気づきます。

《インナーチャイルドを癒す》

父親との関係が問題だと長い間思っていた。
実は、母親との問題だったことに気づいた。
幼いBちゃんは、本当はお母さんにどうしてもらいたかったのか。

幼いBちゃんの気持ちを聞いてあげて、インナーチャイルドを癒すことをお話する。

1回目相談会选择レメディ

随時 サポートこうあるべき-ゆるし-

朝 Phos.(リン) LM1 TBRより選択 敏感体質
St-C-D 30C(粒) 潰瘍性大腸炎になる前に
アトピー性皮膚炎が悪化し、ステロイド剤を塗布

昼 Tub-b. LM2 結核マヤズム傾向
(アレルギー体質・悪臭便)

夜 Puls.(セイヨウオキナグサ) LM3 TBRより選択
家族がいても世界で一人ぼっち

《インナーチャイルドを癒す出来事》

Bさんは、珍しく母親と姉と食事に行った。
そのときに、勢いで相談会でのインナーチャイルドの話や自身の気づきを母親に話した。
本当は愛情が欲しかったこと、抱っこしてもらいたかったことを伝えた。
母親から、「あら、悪かったわねえ。」と言われ、聞いてもらえてスッキリした。

《結果》

潰瘍性大腸炎の症状が改善
食後の出血もなし

《Bさんにも変化が…》

とても仲が悪かった5歳年上の姉。

みんな仲良くしなくてもいいんだ、という考えを受け入れられるようになった。

(白黒ハッキリさせなくてもいい。グレーでいい)

Bさんは、キックボクシングの趣味を楽しまれ、いきいきと過ごされています。

《考察》

Bさんが、インナーチャイルドをよく理解してくれ、気づきも早かった。そして、すぐに行動に移せたこと、そういったことで改善も早かったのだと思う。

症状だけをみるのではなく、インナーチャイルド癒しなど心の問題も一緒に診ていくことが大切だと感じた。

そのために、サポートリンクチャーを活用することが有効。症状改善のために、心の問題にも目を向けなければならないと思った。

kongressでの発表を快諾して
 いただいたBさんに感謝致します。

御覧くださり、
 ありがとうございました。

